

グループ内連携が奏功

営業力強化を推進

山陽染工

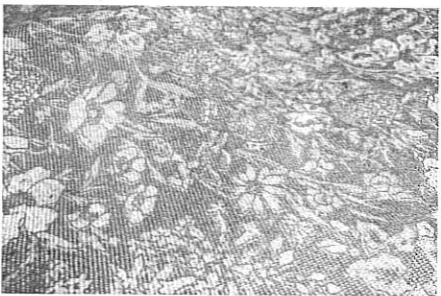
山陽染工（広島県福山市）はグループ企業で、デニム製織の中国紡織（同）、染色加工の山陽染工児島フアクトリー（岡山県倉敷市）との連携を深めている。

3社での共同企画を推進することで、担当者ベースでの連携も強化されてきた。合同営業会議も月に一度開いている。松本社一郎社長は「互いの仕事を知る機会が増え、それが企画にも反映されている」と指摘する。

一方で、「新企画の開発数は増えている一方で、アピールする力が弱い」（松本社長）ことが課題。

2015年に児島フアクトリーとの連携で開発した「段落ち抜染」を進化させ、「リバティプリン」向けの小花柄に対応させた。インディゴ染めの抜染はプレス圧の管理など難度が高く、特に小さい柄の表現にグループ内の技術連携力が活用されている。

展示会、商談会への参加など、営業力強化を進めを増やすほか、人員補充を



「段落ち抜染」で小花柄を新提案

硫化中白染めの「ダスティ加工」をウール100%生地にした企画も新提案する。カジュ